

Super CMIT

クイックガイド



ようこそ、Digital ガンマイクワールドへ

- ・ アナログモデル CMIT 5U をベースに開発された、非常に指向性の高い特性。
- ・ 2つのトランスデューサー(カプセル)による、2種類の指向性を選択可能。
- ・ 2チャンネル音声出力:
 Ch-1: 2カプセルのデジタルプロセッシング
 Ch-2: 1カプセルのみのスタンダード音
- ・ イルソニック社によるDSP アルゴリズム (Ch-1)

同梱されるアクセサリ:

木製ケース、SG20 スタンドアダプター、W170 ウィンドスクリーンフォーム



別売品アクセサリ: Mini-DA42

アナログ信号と AES3 デジタル信号を出力するコンバーターボックスです。

D サブコネクターを XLR コネクター(4つ)に分岐するブレイクアウト・ケーブルと電源(DC12V) が必要です。



Mini-DA42:
AES42 converter with analog outputs

Breakout cable for Mini-DA42:
input: 1 * AES42,
output: 1 * AES3 out, 2 * analog

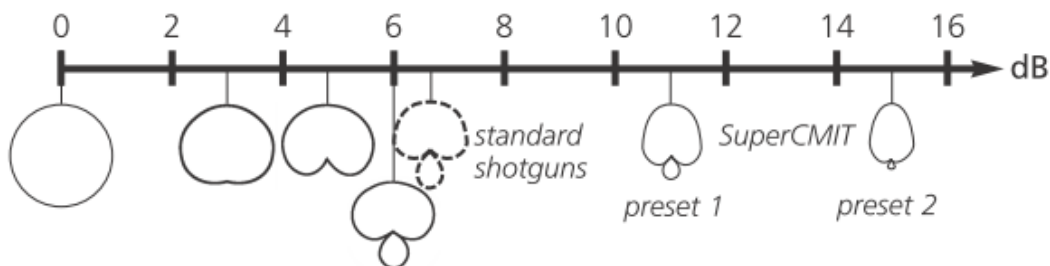
別売品アクセサリ: PSD 2U

AES3 へと SPID/F にコンバートするボックスです。

電源(DC12V)が必要です。



PSD 2U



Super CMIT (Ch-1) は、中・低域における diffuse 音(拡散エネルギー成分)を抑えた超指向性を実現。

Super CMIT の接続

Super CMIT の XLR3 コネクタに AES42 対応のプリアンプを接続してください。Super CMIT が動作するためには、デジタル・ファンタム電源(10V)が必要です。電圧が供給されると、Super CMIT のオーディオ出力は、AES42 Mode 1 に準拠したデジタル信号が出力されます。

Mode 1 では、マイクロフォン自身のクロック(48kHz)で動作するため、Super CMIT を接続したプリアンプで必ず SRC(サンプリングレートコンバータ)を有効にして御利用ください。

Super CMIT のオーディオチャンネル出力

Channel 1:

“Super CMIT” は、2つのトランスデューサーによるソースがプロセッシングされた超指向特性信号です。

Channel 2:

“CMIT” は、通常の指向性: 前向きトランスデューサーのみの非プロセッシング信号です。

Super CMIT のボタン操作

High-frequency boost:

ウインドスクリーンによる損失を補償するために、10kHz で +5dB ゲインアップされます。

Low-cut:

80Hz, 18dB/oct のローカットフィルターです。

※備考

フィルタースイッチの設定は Ch-1 と Ch-2 のどちらも影響を受けます。赤色 LED 点灯で Filter ON です。



Preset ボタン

”Super CMIT” (Ch-1) の指向性を変更できます。

- Preset1 (緑 LED): 強い指向性。拡散音を 11dB 抑え、CMIT よりも 5dB 大きくなります。
- Preset2 (赤 LED): 拡散音を 15dB(非常に大きく)抑えます。この設定は特別な用途に用意されたもので、やや音質が落ちます。

ケーブル

通常のアナログ XLR ケーブルでも Super CMIT を御利用いただけますが、一般的なアナログケーブルは、インピーダンス特性がデジタル信号伝送用に定義されていないため、ケーブルが長くなるとマイクロフォンの動作が不安定になる場合があります。インピーダンス 110Ω の AES3 用 XLR-3 ケーブルを使用した場合、300メートル長の運用が可能です。

起動時のノイズ

電源が入ると、Super CMIT が使用可能になるまでに 15 秒を必要とします。起動中は大きなノイズが出る恐れがあります。この音はまったく正常です。

ゲイン/リミッター

SuperCMIT は、AES42 対応プリアンプでゲインを上げて利用していただく仕様となっています。入力機材側でゲインを上げることができない場合は、SuperCMIT 側で一時的にゲインを 30dB 上げることができます。(デジタルファンタムが切れると、ゲイン設定がリセットされず。)

Super CMIT 内部でデジタルゲインを 30dB 上げるには、各3つの押しボタンを順番に 2 回ずつ押ししてください。ボタンをどちら側から押し始めるかは重要ではありません。(例: 332211 または 112233 と押しください。) 同じボタンを 2 回押す時に、押す間隔をちょっと空けるようにしてください。ゲイン設定をデフォルトに戻すには、ゲインアップした時と同じ操作をもう一度行ってください。

Super CMIT 側で 30dB のゲインを設定すると、デジタルリミッターも有効となります。Ch-1 と Ch-2 でセパレートされているリミッターのスレッシュホールド値は、それぞれ -3dB に固定されており、瞬間的なピークに対してオーバーロードが発生しません。なお、このリミッターによって、マイクロフォンの中のプロセッシングのレイテンシーが増えることはありません。

Super CMIT の発熱

長時間 SuperCMIT を使用すると、マイクロフォン自体が熱を帯びますが異常ではありません。

